

# アクションプラン実施報告書



# アクションプラン実施報告書

## 【メンバー名】

S.M (高3-2)、Y.Y (高3-1)

## 【アクションプラン名】

Soy meat project (人との共生)

## 【設定した課題とその理由、想定される変容事項】

### 1) 設定した課題

タンパク質や食物繊維、ミネラルが豊富である大豆ミートを特産物としている日本の過疎地域である福島県古殿町の道の駅から購入し、過疎地域への支援につながることを期待する。また食糧支援をしているJICAと連携しガーナの子供たちの栄養不良改善を目指す。

### 2) 課題として捉えた理由や背景

食糧不足による飢餓はメディアで取り上げられることが多く、比較的解決されているが、微量栄養不足による慢性栄養不良は見た目には顕著な症状が現れないためあまり重要視されてこなかった。メディアに取り上げられることだけに注目するのではなく、見えないところで苦しんでいる人にこそ目を向けるべきだと思った。そこで、慢性栄養不良の子供たちが多いガーナに栄養価の高い大豆ミートを送ろうと考えた。また、最近日本では都市部に人口が集中し地方の過疎化が進んでいるため、この大豆ミートを日本の過疎化地域から購入することで過疎地域の活性化にも繋がると考えた。

\* JICAでは食糧支援をすることは出来なかったため送り先をガーナからタイ体験学習で訪れているプラティープ財団に変更。(スラムの子供たちが多くいる幼稚園を経営)

### 3) アクションプランの実行によりもたらされる変容 (想定していること)

- ・日本の過疎地域から特産物を購入することでその地域の活性化に繋がる。
- ・栄養価の高い大豆ミートをガーナに送り、食べてもらうことで子供たちの栄養不足改善に繋がる。

## 【連携する企業・団体等】

### 1) 独立行政法人国際協力機構 (JICA)

担当者：伊藤 様

### 2) 古殿町道の駅 おふくろの駅

担当者：駅長 有賀繁美 様

\* プラン変更により次の連携企業変更

### 3) ドゥアン・プラティープ財団

国際部部长 ラダパン・プレストリーン 様

創設者 プラティープ・ウンソンタム・秦 様

## 【ジャーナル（活動記録）】

- 4/12（水） G I（授業）、アクションプラン計画書の再検討  
4/17（月） アクションプラン計画書の再提出  
4/18（火） 案の再検討  
4/19（水） アクションプラン計画書の詳細な実行計画策定・提出  
4/26（水） JICA、UNICEFについて調べる  
JICAに決める  
5/1（月） JICAについて調べる（連絡先）  
5/2（火） JICAについて調べる（JICAの利益について）  
大豆ミートについて調べる  
苫米地先生に質問  
5/3（水） 古殿町 町役場産業振興課課長補佐にインタビュー  
5/9（火） メンターの先生に輸送費と購入費について相談  
メールアドレスの設定  
5/12（金） 企画書提出  
5/15（月） 企画書の訂正①（JICAの利益について）  
5/16（火） 企画書の訂正②（大豆ミートの価格について）  
5/17（水） JICAに電話（断られる）  
アクションプラン実施計画書の再提出  
5/18（木） 案の再検討（プラティープ財団に変更）  
5/21（日） タイについて調べる（タンの大豆生産量、消費量について）  
プラティープ財団について調べる  
5/23（火） 企画書の改訂版作成  
5/24（水） 苫米地先生とタイ体験学習について相談  
タイについて調べる  
5/25（木） タイについて調べる（大豆ミートの調理案）  
5/27（土） アクションプラン実施企画書の提出①  
5/30（火） シスター田口にメールについて相談、連絡先をもらう  
5/31（水） プラティープ財団にメール①  
6/11（日） メールをもらう  
6/12（月） メール返信①  
6/7（水） プラティープ財団に催促のメール  
6/26（月） タイ研修のメンバーに大豆ミートの説明（パワーポイント）  
7/8（土） 大豆ミートを注文する  
7/10（月） 大豆ミート到着  
7/12（水） 収支報告書の提出  
7/19（水） タイ研修のお土産分配で大豆ミートを渡す  
8/21（月） 苫米地先生にお礼を言いに行った  
プラティープ財団にメール②  
調理実習のレシピを調べる  
8/22（火） 丸子先生に8/25（金）の調理室の使用許可をいただく  
8/23（水） プラティープ財団から返信②  
8/24（木） プラティープ財団にメール③  
8/25（金） 調理実習を行う  
8/30（水） 古殿町に大豆ミートの結果報告とお礼状を書く

## 【交渉記録】

- 5/17（水） JICAに電話 \*断られるがアドバイスをいただく  
a. 青年海外協力隊の荷物に入れていただく

- b. 指定された物資を J I C A に送るイベントに参加する
- c. 名古屋の N G O のイベントに参加する（食べ物難しい）

- 5/31（水） プラティープ財団に自己紹介のメールを送る
- a. アクションプランの説明
  - b. 大豆ミートについて
- 6/6（火） プラティープ財団からタイの大豆商品について教えていただく  
大豆ミートを受け取っていただけると連絡が来る
- 6/12（月） タイ研修で大豆ミートを持っていくことを伝える  
大豆ミートの説明と量
- 6/13（火） 返信がある
- 6/17（土） タイ研修後に改めて連絡することを伝える
- 6/20（火） 返信がある
- 8/21（月） 大豆ミート試食の感想をいただくためメール
- 8/23（水） 創業者であるウンソンタム・秦 様からお礼のメールを頂く  
園児たちが大豆ミートを食べている様子の写真をいただく

#### 【アクションプランの実行に向けて】

##### 1) 準備した内容

- ・大豆ミートについての調べ
  - 大豆そのものについて（栄養価、カロリーなど）
  - タイでの大豆の需要
  - タイの地域による食事の味付けの違い
  - タイの食習慣
  - 調理案の提案

##### 2) 実行した内容

- ・道の駅への大豆ミートの値段確認
  - 駅長に電話で今回の活動の趣旨を伝える
  - 産業振興課の方に大豆ミートについてお話を伺う
- ・タイ研修担当の苫米地先生に相談
  - プラティープ財団についてお話しを伺う、パンフレットを頂く
- ・シスター田口に相談
  - プラティープ財団についてお話しを伺う
  - シスター田口を通してプラティープ財団を紹介していただく
- ・プラティープ財団とメールでのやりとり
  - 国際部部長のラダパン・プレストリーン様と連絡を取り合う
- ・予算書の提出
- ・調理法と食品表示の英訳
- ・苫米地先生にお礼
- ・タイ体験学習に参加した人に手ごたえを聞きに行く
- ・大豆ミートを使用して調理実習を行う
- ・古殿町にお礼状を書く
- ・シスター田口にお礼と結果報告
- ・タイ研修で協力してもらった人のいるクラスにプラティープから送られたメールと写真を掲示してもらった

## 【検証・引き継ぎ事項】

私たちは、スラムの子供たちを多く受け入れているタイのプラティープ財団に栄養豊富な大豆ミートを送り、子供たちの栄養不良改善に取り組んだ。

### 《評価点》

- ・ 過疎地域である福島県古殿町の特産物である大豆ミートを使うことで、地域の活性化に繋がった。
- ・ プラティープ財団幼稚園の給食メニューの幅が広がった。
- ・ 栄養不良の子供たちに必要な、微量栄養素を補うことができた。
- ・ 古殿町役場のFacebook、古殿町と提携しているグリーンカルチャー株式会社のホームページで記事になった。(後ろのページに掲載)

### 《改善点》

- ・ 今回考えたアクションプランは継続的に行わなければ、大きな効果が見えにくいため継続してくれる人を見つけなければならない。
- ・ 古殿町からの大豆ミートの購入も継続的に行わなければ、過疎地域のさらなる活性化にはつながらない。
- ・ プラティープ財団の大豆ミートを使用した給食メニューのレパートリーを増やしたい。
- ・ プラティープ財団は、給食や栄養補強食などをスラム地区の幼稚園や各センターに支援するプロジェクトを行っているため、各センターにも大豆ミートの存在を広めていただくように私たちが連絡をするべきであった。

### 《引継ぎ事項》

- ・ このアクションプランは、継続的に行うことで効果がわかる。タイ体験学習は2年に1度しか行われませんが、2年に1度のペースでもいいので継続してもらいたい。
- ・ 継続することで、さらなる活性化につながるため、タイだけに限らず、他の国の食糧支援にもつながることができたら良い。
- ・ タイ体験学習の参加者に大豆ミートを持って行っていただけたため日本からタイの送料がかからなかった。
- ・ 来年はタイ体験学習が実施されないため、継続する場合は送料を自分達でまかなう必要がある。

2017年8月23日

札幌聖心女子学院の先生方、生徒の皆さんへ

先日はドゥアン・プラティープ財団にお越しいただき、ありがとうございました。  
この夏の日本は猛暑が続いているとのことですが、札幌ではいかがでしょうか。  
秋風がそろそろ吹き始めている頃ではないかと、バンコクより思いをはせております。

さて本日は、ご訪問の際、プラティープ幼稚園にプレゼントしていただいた大豆ミートの報告をお届けします。一目瞭然と申しますが、幼稚園ではさっそくお昼ご飯のメニューとして試食させていただきましたので、その模様の写真をお届けいたします。ごらんのように、園児たち自身が園内で育てた野菜やタマゴなどの食材と一緒に料理して、おいしくいただきました。

幼稚園で提供しているお昼ご飯は、いつも園児たちが楽しみにしており、同じメニューが続かないよう日々苦心しているところです。それだけに日本から持参していただいた大豆ミートは喜びもひとしおでした。

来年もまた、皆さま方にお会いできるのを心待ちしております。  
貴重なプレゼント、ほんとうにありがとうございました。

ドゥアン・プラティープ財団創設者  
プラティープ・ウンソンタム・秦



プラティープ財団からのメール



古殿町  
@furudono

- ホーム
- 投稿
- レビュー
- 動画
- 写真
- ページ情報
- コミュニティ

ページを作成

いいね! シェア 編集を提案 ...

古殿町さんが写真5件を追加しました。  
9月24日 20:02

【やぶさめくん大豆ミートで世界の子供たちを救え!!】  
わが町の特産品「やぶさめくん大豆ミート」が世界の子供たちを救う取組に使われました。

北海道・札幌聖心女子学院が行う、「グローバル・イシューズ」という世界的な問題・課題に対して何が出来るかを考え行動する授業を通して、タイの貧困に苦しむ子供たちへ、栄養まんてん「やぶさめくん大豆ミート」が贈られました。

大豆ミートを贈られたタイのスラム地区で教育支援を行うドゥアン・プラティープ財団では、自身の運営する幼稚園でさっそく給食に使用し、園児たちが園内で育てた野菜と一緒に自ら調理し、子供たちの舌とお腹を満足させました。



いいね! コメントする

メッセージを送る

このページの投稿を検索

日本語 · English (US) · Español · Português (Brasil) · Français (France)

プライバシー · 規約 · 広告 · AdChoices · Cookie · その他 · Facebook © 2017

古殿町のFace bookの記事

ブログ

2017.06.07 古殿町大豆ミートがタイの子供たちの元へ贈られました！



グリーンカルチャーも開発に関わらせていただいた福島県古殿町の「やぶさめ大豆ミート」がタイの食事に共しむ子供たちに食糧支援として贈られました。

これは北海道・札幌聖心女子学院が行う、「グローバル・イシューズ」という世界的な課題・課題に対して何が出来るかを考え行動する授業の一環として行われたものです。

大豆ミートを贈られたタイのスラム地区で教育支援を行うドゥアン・プラディーブ財団では、自身の運営する給食所で美味しく給食に使用し、児童たちが園内で育てた野菜と一緒に自ら調理しました。

大豆ミートを使った料理を食べた子供たちもその味に大満足の様子。古殿町の特産品の国産大豆を使った大豆ミートは栄養もたっぷりです。おなかもこころも満たされたようです。

大豆ミートがこのような形で海外での社会貢献に役立っていることにとっても嬉しく思います。安全が保たれて栄養価も高い大豆ミートは食料としても非常に優れているので、今後様々な場面で活用されていくって欲しいと思います！



古殿町と提携している企業であるグリーンカルチャーの記事

最近の記事

- 2017.10.2 古殿町大豆ミートがタイの子供たちの元へ贈られました！
- 2017.9.15 京都ベジタリアンマップのお取り扱い開始します
- 2017.9.8 コリン・キャンヘル様土曜日特別講演（グリーンカルチャー公式講演）
- 2017.9.8 第4回津橋ウィークエンドフェスタへ参加決定
- 2017.8.29 京都ベジマップお披露目会にて食材が採用されました

会社情報



グリーンカルチャー株式会社  
〒341-0035  
埼玉県三郷市霞野 2 丁目480-2  
グリーンカルチャー 物流センター  
TEL:048-960-0425  
FAX:048-960-0427



平成29年度食育支援行動計画

LINEアプリ Tweet

訪問者数

1000

# アクションプラン実施報告書

## 【メンバー名】

N.R（高3－2）

## 【アクションプラン名】

世界の初等教育の質の向上（人との共生）

## 【設定した課題とその理由、想定される変容事項】

### 1) 設定した課題

発展途上国での初等教育における文房具の不足

### 2) 課題として捉えた理由や背景

発展途上国には、道具や教師の不足により、十分な教育を受けることができない子供はたくさんいる。貧しいため、ノートや鉛筆などの文房具を買うことができない子供がいるということも問題の一つである。このような現状により、読み書きなどの基礎的な学習が出来ないまま、学校をやめてしまう子供がたくさんいる。そこで、不要な文房具を集めて送ることで、少しでも発展途上国の学校の教育環境が整い、読み書きをはじめとする、生きていく上で必要な知識を身に着けることができる子供が増えるのではないかと考えた。また、同世代の小学生が世界の初等教育の現状について認識することにより、世界で起きている問題についての意識が高まり、将来その子供たちが大人になったときに困っている人に手を差し伸べ、社会に貢献する人になってほしいと考えた。

### 3) アクションプランの実行によりもたらされる変容（想定していること）

- ・フィリピンで鉛筆や消しゴムなどの文房具を使って勉強できる子供が増える。
- ・同世代の小学生が世界の初等教育の現状について理解することで、世界の貧困問題、教育問題についての意識が高まる。
- ・実際に小学生が家で不要な文房具を寄付することで、自分が世界の問題の解決に貢献できることを認識し、今後の生活に良い変化をもたらす。

## 【連携する企業・団体等】

### 1) ガールスカウト北海道第17団

担当者：福舛恵子様

### 2) 札幌市立山の手南小学校

担当者：鎌田哲至様

### 3) 認定NPO法人アクセス

担当者：野田沙良様

## 【ジャーナル（活動記録）】

- 4/12（水） G I（授業）/アクションプラン計画書の再検討
- 4/17（月） アクションプラン計画書の再提出
- 4/19（水） アクションプラン計画書の詳細な実行計画策定・提出
- 4/26（水） G I（授業）/GWの計画
- 5/1（月） 小学校にアクションプランの説明、実施の許可と連携を依頼
- 5/6（土） ガールスカウトにアクションプランの説明、実施の許可と連携を依頼
- 5/8（月） 実施企画書の提出
- 5/10（水） 国際社会支援推進会についての調査

- 5/17 (水) G I (授業) / 予定の計画
- 5/19 (金) 実施企画書の再提出
- 5/25 (木) 国際社会支援推進会に連携を依頼  
NPO法人時遊人についての調査・依頼
- 5/26 (金) ガールスカウト・小学校に電話
- 6/6 (火) NPO法人アクセスに連携を依頼
- 6/16 (金) ガールスカウトでのプレゼンに向けて準備
- 6/17 (土) ガールスカウトにてプレゼン/文房具回収の呼びかけ
- 6/21 (水) G I (授業) / 小学校でのプレゼンに向けた準備
- 6/22 (木) アクセスに企画書を送付
- 6/28 (水) G I (授業) / 小学校保護者向けの文書作成
- 7/5 (水) G I (授業) / 小学校のプレゼンに向けた準備
- 7/7 (金) パワーポイントチェック
- 7/18 (火) 小学校にてプレゼン/文房具回収の呼びかけ
- 7/19 (水) 探究報告書の作成
- 7/21 (金) 小学校にて文房具回収の最終日のため回収ボックスの撤収
- 7/22 (土) 文房具を巾着袋に詰める作業/個数の確認
- 8/1 (火) 文房具を京都 (NPO法人アクセス) へ送付
- 8/5 (土) アクセスの野田様から文房具到着の確認メールが届く
- 10/6 (金) NPO法人アクセスの野田様からフィリピンでの文房具贈呈完了の報告→小学校  
・ガールスカウト向けの報告用ポスター及びお便り作成
- 10/16 (月) 小学校に報告のポスター持参
- 10/28 (土) ガールスカウトに報告のお便りを持参し、全員に配布

#### 【交渉記録】

- 5/1 小学校を訪問し、教務の鎌田様、校長先生にアクションプランの説明、実施の許可と連携を依頼。日程を調整。対象学年を高学年(4年生～6年生)とした。
- 5/6 ガールスカウト福舂様に電話。アクションプランの説明、実施の許可と連携を依頼。
  - ① 日程を調整。ガールスカウトの予定を確認し、6月末～7月末で行うことを決定した。
  - ② 文房具を送る際にPlan Japanはガールスカウトとつながりがあるため、協力してもらえらる可能性があるという助言をいただいた。
  - ③ 以前、ガールスカウトが行っていたピースバックプロジェクトの話を知った。
- 5/25
  - ① 国際社会支援推進会に電話。送り先について自分の当初の予定とは異なっていたため、再検討。
  - ② NPO法人時遊人に電話。送り先に問題はなかったものの、送る際の文房具の状態が自分の当初の予定と異なっていたため、再検討。
- 5/26 ガールスカウト福舂様に電話。
  - ① 日程調整。プレゼンをする日を6/17に、最終的な回収日を7/22に決定。6/17はいつもより人数が多く、父母が特にいつもより多いという助言をいただいた。
  - ② プレゼンの時間は30分程度に決定。パワーポイントの使用が可能。
  - ③ 幼稚園児から大人まで年齢層が幅広いので、誰が聞いてもわかりやすくすると良い、という助言をいただいた。

小学校の鎌田様に電話。

- ① 日程の確認。対象学年は6年生に決定。
- ② プレゼンの時間を各クラス10分ずつに決定。

- 6/6 NPO法人アクセスの野田様に電話、依頼。  
 ①文房具の個数について、小学生35人分に決定。  
 ②回収する文房具は8/21からのフィリピンスタディーツアーで届けられるため、8/16までにNPO法人アクセスの事務所がある京都に届ける。
- 6/17 NPO法人アクセスの野田様とメールで連絡。  
 文房具贈呈後の報告はA4サイズの紙と写真をいただくことを決定。
- 7/12 小学校の鎌田様からメール。  
 ①時間の変更（プール学習の関係で）。  
 ②ポインター使用の確認。
- 10/6 NPO法人アクセスの野田様から文房具贈呈完了の報告書が届く。

## 【アクションプランの実行に向けて】

### 《ガールスカウト》

#### 1) 準備した内容

幼稚園児でもわかりやすい識字のクイズ、フィリピンの貧富の差を表す写真などを交えたパワーポイントを作成。また、保護者向けの文房具回収を呼び掛ける文書を、イラストを交えてイメージしやすいように作成。

#### 2) 実行した内容

6/17（土）11:30～12:00。ガールスカウトの集会でプレゼンをし、文房具の回収を呼びかける。対象は幼稚園年長から中学3年生とその保護者。

#### 〈プレゼンの内容〉

- ・薬のクイズで文字が読めない体験をしてもらう。
- ・文字が読めない子供が世界中にどのくらいいるのか、説明する。
- ・日本の小学校の授業風景と発展途上国の小学校の授業風景を比べて、発展途上国の子供は文房具を持っていないことを確認する。
- ・送り先のフィリピンについて説明する。
- ・質疑応答



#### 〈プレゼンを聞いた小学生の感想〉

- ・フィリピンの子供たちは学校に行けなくて大変そうだったので、自分のできることをしたいと思いました。
- ・日本は義務教育だから学校に行けるけど、他の国ではたくさんの子供が教育を受けられていないことに驚きました。
- ・家に眠っている文房具をたくさん集めて、色々な人に使ってもらいたいです。

#### 〈文房具回収〉

回収期間 6/17～6/22

### 《山の手南小学校》

#### 1) 準備した内容

小学6年生が分かるような識字のクイズ、フィリピンの学習環境を表す写真を交えたパ

ワーポイントを作成。また、保護者向けの文書をガールスカウトのものと同じように作成。

## 2) 実行した内容

7/18 (火) 8:25~8:35 6年1組と2組の男子、8:35~8:50 6年3組と2組の女子に対してプレゼンをし、文房具の回収を呼びかける。

### 〈プレゼンの内容〉

- ・菓子のクイズを使って、文字が読めない体験をしてもらう。
- ・文字が読めない子供が世界中にどのくらいいるのか、説明する。
- ・日本の小学校の授業風景と発展途上国の小学校の授業風景を比べて、発展途上国の子供は文房具を持っていないことを確認する。
- ・送り先であるフィリピンについて説明する。
- ・質疑応答



### 〈プレゼンを聞いた小学6年生の感想〉

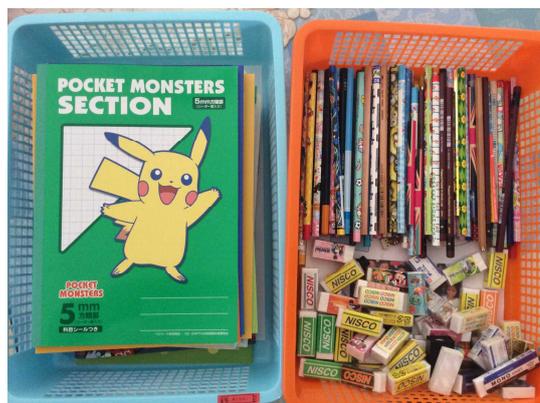
- ・自分と同じ小学生が自分と同じ教育が受けられていないことに驚きました。
- ・自分が今使っている文房具も大切に使おうと思いました。
- ・小さなことでも自分ができることを見つけようと思いました。

### 〈文房具回収〉

回収期間 7/19 (水) ~ 7/21 (金)

### 《回収結果》

鉛筆	341本
赤鉛筆	42本
ノート	84冊
消しゴム	92個
鉛筆削り	8個



《巾着袋の中身》※巾着袋はガールスカウトのお母様方が42枚作ってくださった。

鉛筆	8本
赤鉛筆	1本
ノート	2冊
消しゴム	2個

※鉛筆削りは個数が足りなかったため、巾着袋には入れずに送った。また、余った鉛筆や消しゴムも同様に、別の袋に入れて送った。



7/22(土)

文房具を巾着袋に詰め、数を確認した。

8/1 (火)

郵便局に行き、京都(NPO法人アクセス)へ送付。

8/5(土)

アクセスの野田様から確認メールが届く。



8/21(月)

アクセスが主催するフィリピンスタディーツアー出発。このスタディーツアーの中でスラム街の子供たちに文房具が届けられる。

9/18(月)

文房具がマニラのスラム街のトンド地区に住む子供たち35人に渡される。



8月18日にこのトンド地区で火災が発生し、500世帯が焼け出され、約1500人が被災した。この火災により被災し、家を失った子供たちにも文房具が届けられた。

10/6(金)

NPO法人アクセスの野田様からメールで報告書が届く。

10/16(月)

小学校に報告のポスターを持っていく。

10/28(土)

ガールスカウトに報告のお便りを全員に配布する。

## 【検証・引き継ぎ事項】

### 1) アクションプランの有用性

プレゼンを行った後、小学生が「小さなことでも自分ができることをしたい」という感想を述べていたことから、彼らが世界の教育現状について考え、課題解決に貢献したいという意志を持つ機会につながった。また、小学生の「自分の文房具を大事にしたい」という感想から、世界の教育現状を考えるだけでなく、自分が置かれている環境がどれだけ恵まれているか見直す機会となった。

### 2) 課題解決に向けてのアクションプランの改善点

文房具を送るときに仲立ちをしてもらう団体、もしくは企業を選ぶときに、文房具支援の対象が自分の目的と合っていることを電話やメールで確認してから話を進めること。

### 3) 下級生への引き継ぎ事項

巾着袋を作るのが大変だったため、たくさんの人に作るのを手伝ってもらった方が良い。プレゼンをするときは写真を大きくする。また、今回はNPO法人が主催するフィリピンスタディーツアーを通して文房具をフィリピンに送ったが、可能であればそのスタディーツアーに参加して、自分の目で現状を見て、自分の手で子供たちに文房具を渡した方がより確実で、達成感を味わうことができる。

# アクションプラン実施報告書

## 【メンバー名】

S.M（高3－2）

## 【アクションプラン名】

フィリピンに物資を届けよう！（人との共生）

## 【設定した課題とその理由、想定される変容事項】

### 1）設定した課題

ゴミ山で生活している子どもたちがいるという課題。貧困家庭に生まれた子どもは労働を強いられるため、学校に行くことができない。そして、教育を受けないと将来も貧困になることが多くなり、負の連鎖から抜けられない。また、貧困から子どもたちが犯罪に手を染めることも多い。

### 2）課題として捉えた理由や背景

私は去年の夏、小林聖心主催のフィリピン体験学習に参加した。そこでゴミ山で生活している子どもたちや貧困地域に住む子どもたち、道路で物を売る子どもたちと出会い、ショックを受けた。その子どもたちに何かできないかと思い、今回のアクションプランを考えた。

フィリピンは国民の25%が1日1ドル以下で暮らしている貧困層であるといわれている。そのような現状があるということは子どもたちが重要な労働力になっていると考えられる。つまり、貧困家庭に生まれた子どもは働かざるをえなくなり、学校に通うことが困難になるということだ。また、教育を受けられない環境にいるため、貧困から抜け出せるチャンスが失われていると考えた。

ハロハロ会はフィリピンのモンタルバン地区と交流し、教育支援をしている。具体的にはバザー出店やチャリティーコンサートで資金作りを行ったり、コミュニティ開発援助を行ったり様々な活動をしている。また、私が訪れたSMSF（聖マグダレナ・ソフィア基金）でもそんな子どもたちのために様々な活動をしていた。私はこのアクションプランで子どもたちやその家族の皆さんに物資を届け、貧困から抜け出すことに少しでも役立ちたいと思った。

### 3）アクションプランの実行によりもたらされる変容（想定していること）

札幌聖心の人たちや、聖ソフィア祭で札幌聖心を訪れてくださった人たちにSMSFにいる子どもたちがおかれている状況を知ってもらうことができる。貧しい地域にいる子どもたちのことを考えるきっかけを作ることができる。家庭に眠っている品物を提供するだけの少しの労力で貧困地域に役立てることを知ってもらうことで、持続的に支援したいという気持ちを喚起する。

## 【連携する企業・団体等】

### 1）ハロハロ会

担当者：松本 様  
小張彩子 様

## 【ジャーナル（活動記録）】

- 4/12（水）G I（授業）、アクションプラン計画書の再検討
- 4/16（日）アクションプラン計画書の直し
- 4/17（月）アクションプラン計画書の再提出
- 4/19（水）アクションプラン計画書の詳細な実行計画策定・提出
- 4/24（月）今後のスケジュール表作成→後日、メンターに提出
- 4/26（水）ハロハロ会とSMSFの詳しい調査
- 5/4（木）ハロハロ会とSMSFの詳しい調査②
- 5/10（水）モンテッソーリ教育の調査、企画書作成
- 5/16（火）企画書作成、メール文の書き方調査
- 5/17（水）GWの宿題練り直し、企画書作成
- 5/31（水）企画書作成、メール文作成
- 6/1（木）企画書作成、メール文作成
- 6/2（金）メール文完成
- 6/4（日）使用金額表
- 6/20（火）アクションプラン予算請求書提出
- 6/22（木）メール確認
- 6/28（水）プリント完成
- 7/1（土）プリント配布
- 7/5（水）聖ソフィア祭に向けての準備、ポスター作成
- 7/10（月）～7/12（水）クッキー生地作り
- 7/12（水）聖ソフィア祭準備
- 7/14（金）クッキーを焼く
- 7/16（日）クッキーの売上計算
- 7/19（水）報告書作成
- 7/20（木）物資回収
- 8/2（水）（株）トランステックに箱を依頼
- 8/6（日）小張先生にメール
- 8/10（木）（株）トランステックに箱回収依頼、箱詰め
- 8/14（月）（株）トランステックが箱回収
- 9/20（水）SMSFから荷物が届いたというメールが届いた→返事
- 10/2（月）リゼット先生からお礼状が届く→返事

## 【交渉記録】

- 6/2（金）ハロハロ会、有田由佳様にメール。アクションプランの企画書を添付した。
  - ①SMSFの子どもたちがどのような物資を必要としているのか。
  - ②物資を集めた後、ハロハロ会を通して物資をSMSFに届けていただけるか。
- 6/3（土）松本様からご返信。
  - ①お待ちいただけますか？
  - ②Sr. 有田はローマに赴任中なため、時々フィリピンに行く松田様に確認をとるとのこと。
- 6/3（土）お待ちしておりますと松本様に返信。
- 6/20（火）松本様に催促のメール。
- 6/21（水）松本様からご返信。
  - ①松田様に一言入れてくださる。
  - ②定期的に関西のハロハロ会からフィリピンに物資輸送をしている訳ではないので、直接札幌から船便で送る、あるいは体験学習参加者に分散して持参してもらうというのが現実的なように思います、とのこと。

6/22（木）松本様に返信。

①船便を検討。

6/22（木）小張先生からご返信。

①SMSFの子どもたちがどのような物資を必要としているのか。という質問に対しての答え。

<SMSFが活用できる支援物資>

①SMSFの「みこころの家幼稚園」や「小学校補修プログラム」で使えるもの

- ・色鉛筆、クレヨン、クレパスなど
- ・絵本（英語）
- ・ぬいぐるみや知育玩具（パズル、積み木など）
- ・そのほか、エンピツや消しゴム、ボールペンといった文具

②生活用品

- ・Tシャツ、タオル、下着類（子供用パンツ）は大変重宝。

②物資を集めた後、ハロハロ会を通して物資をSMSFに届けていただけるか。という質問に対しての答え。

国内の送料を考えると、札幌聖心から直接現地にバリックバーヤンBOXで送っていただいたほうが良い、とのこと。

6/23（金）小張先生に返信。

①物資内容を詳しく上げていただいたお礼。

②輸送手段の提案。

③協力してくださることに対してのお礼。

6/23（金）小張先生からご返信。

①支援に対してのお礼。

8/2（水）株式会社トランステックにBOXの依頼。

8/6（日）小張先生にメール。

①物資の内訳。

②SMSFの住所。

8/6（日）小張先生からご返信。

①物資の送り方の注意。

②SMSFの住所。

8/6（日）小張先生に返信。

①お礼。

8/10（木）株式会社トランステックにBOX回収の依頼。

8/14（月）株式会社トランステックがBOX回収。

9/20（水）SMSFに物資が届く。

10/2（月）SMSFのリゼット先生からお礼の手紙が届く。

## 【アクションプランの実行に向けて】

### 1) 準備した内容

私は「フィリピンの子どもたちに物資を届ける」ことを本アクションプランのゴールとしたが、そこまでに至るにはたくさんの準備が必要だった。企画書を作成している中でこうしたら良いのではないかと思うことやこれは本当にできるのかなどたくさんのひらめきと疑問がうまれた。そのたびにメンターの先生と話し合い、少しずつアクションプランの形を作っていった。

準備を進めていく中で大きな変更点が2つ出た。1つ目は輸送手段。2つ目は輸送費を集める方法だ。1つ目の輸送手段は当初、日本郵便を利用しようとしていたが、ハロハロ会の小張先生が教えてくださった(株)トランステックという会社のほうが金銭的に最適であると判断した。これは小張先生に教えていただければ変更できなかったことなので情報をいただけてよかったと思った。

2つ目の輸送費を集める方法だが、当初、札幌聖心女子学院の社会福祉委員がやり取りしているpeople treeで売っているフェアトレード商品であるフィリピン産ドライマンゴー30gを約50袋売り、売り上げで輸送費を賄おうとしていた。しかし、people treeのほうで在庫が足りないという事態となり、輸送費を集める別の方法をメンターの先生と話し合った。その結果、フェアトレード商品であるフィリピン産ドライマンゴー100gを1個買い、それを使った手作りクッキーを売るのがいいのではという話になった。しかし、クッキーを作るにはバターは欠かせなく、100枚作るだけでも相当な値段になった。そのため、母の力も借り、おいしくて材料費があまりかからないクッキーの作り方を探した。探し当てても、作るのは私ひとりだったので何日にも分けて作った。その出来上がったクッキーを聖ソフィア祭で売り切ることができ、また物資も予想以上に集めることができた。

後日、SMSFにいる小張先生に物資がたくさん集まったことを報告すると、現地のリゼット先生からも感謝の言葉をいただいた。

物資を送るより送るまでの準備のほうが本当に大変だった。もっと計画的に余裕をもって進めることができたらなおよかったと思う。

## 2) 実行した内容

私の今回の目的は「フィリピンの貧困家庭の子どもたちに物資を送ることだ。集まった物資は次の通り。

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 【文房具】 | ・メモ帳：27            |
|       | ・付箋：9              |
|       | ・ノート：26            |
|       | ・スケッチブック：2         |
|       | ・絵の具：1セット          |
|       | ・鉛筆：159            |
|       | ・鉛筆キャップ：8          |
|       | ・色ペン：47            |
|       | ・色鉛筆：5             |
|       | ・クレヨン：2            |
|       | ・クーピー：1            |
|       | ・消しゴム：24           |
|       | ・定規（三角定規、分度器含む）：11 |
|       | ・筆箱：2              |
|       | ・テープ：6             |
|       | ・数字ブロック：1          |
|       | ・スクラップブック：1        |
|       | ・ファイル：5            |
|       | ・バインダー：1           |
|       | ・数字遊びのおもちゃ：1       |
|       | ・折り紙：6             |
|       | ・のり：1              |

- |           |          |
|-----------|----------|
| 【衣類・生活用品】 | ・Tシャツ：16 |
|           | ・下着：25   |

- ・クロックス：1
- ・タオル（バスタオル含む）：29
- ・ヘアピン：3
- ・サングラス：1
- ・鏡：2
- ・石鹸：2
- ・ポーチ：3
- ・コップ：2
- ・子供用ヘルメット：1
- ・ベットシーツ：1

【おもちゃ】

- ・ルームバンズ：1
- ・縄跳び：1
- ・トランプ：3
- ・赤ちゃん用のおもちゃ：3
- ・パズル：2
- ・ヨーヨー：1
- ・小さいボール：2
- ・カードゲーム：1

以上

8月14日にSMSFへ荷物を送り、9月20日に現地へ到着。子どもたちへの分配をお願いした。

【検証・引き継ぎ事項】

1) 貧困によって生じる負の連鎖から抜け出すきっかけとなる活動を行うことが今回のアクションプランの目標であった。SMSFでは物資が届くたびに次のような物資の分配を行っている。

①子どもたちへのクリスマスプレゼント。

②バザーで販売。（物資でバザーを行う理由は物を無償で与えるのではなく、どんなに安くても限られた自分の予算の中で、計画を立て、必要なものを自分で選んで買うことができるから。）

このバザーは必要なものを自分で選び物資を無駄なく分けることができることと、お金で買うということでお金を稼ぐためにはどうすべきかを考えるきっかけにもなる。

物資を1度送るだけで貧困から抜け出せるきっかけをつくるのは難しいと思う。しかし、今回のような活動を行うことで当事者たちが少しでも自分でお金を稼ぐにはどうすべきかを考え、給料のよい仕事につくには質の良い教育が必要であるということに気づくことができる。また、SMSFに通う子どもたちは将来の夢を持っている。その夢を叶えるにはどうしても質の良い教育と環境が必要不可欠だ。今回のアクションはそうした質の良い環境づくりの手助けにもつながると考える。結論として、この活動は続けていくことに意味があるという考えに至った。

2) 物資の他にも寄付金を募ればよかったと思った。理由は、現地の方が一番必要としていた下着は、物資回収ではなかなか集めることができなかったからだ。今回はクッキーを売った際に5000円を寄付してくださった方がいたので子供用の下着だけだが買って送ることができた。物資回収で集めることが難しいが現地の方が必要としている物がある際は、寄付金を募るとよいと思った。

3) 私がこのアクションプランを考えるきっかけとなったのは、高校2年生で行ったフィリピン体験学習である。実際に訪れた場所やそこで出会った方々を思いながらの活動だったので「助けになりたい」という気持ちが強く、活動も積極的に行うことができた。私が考えたアクションプランを是非、フィリピン体験学習に参加した人に引き継いでいってほしいと思っている。

# アクションプラン実施報告書

## 【メンバー名】

M.S（高3-2）、M.A（高3-2）

## 【アクションプラン名】

地球に優しい商品選び（自然との共生）

## 【設定した課題とその理由、想定される変容事項】

### 1) 設定した課題

地球温暖化の促進防止（その原因である二酸化炭素に着目）

### 2) 課題として捉えた理由や背景

昨年度の高校三年生のアクションプランである「地産地消に根差した商品選び」の発表を実際に見て、私達にとってとても身近なものがテーマになっていたこと、実際にアクションプランを起こす対象が学校（球技大会のアイスクリームを北海道産のものにすること）で全校生徒に知ってもらいやすく、かつ分かりやすいテーマだと思い、是非このアクションプランを継続したいと考えた。また、最近地球温暖化に関するニュースを聞く機会が多く、また昨年実際に「自然との共生」を学び地球温暖化に興味を持ったこともあり、このテーマを設定した。

また実際に調査してみた結果、地球温暖化を招く最大の原因は二酸化炭素の排出量の増加であり、二酸化炭素の排出量を部門別に調べてみるとエネルギー転換時や産業時に排出されているほか、食材などの輸送時に発生していることを知った。前者の二つは私達の手ではどうすることもできないが、後者である輸送時の二酸化炭素の排出なら、私達の行動次第で排出量を削減出来るのではないかと思った。

### 3) アクションプランの実行によりもたらされる変容（想定していること）

- ・意識することによって変わる消費者の行動
- ・二酸化炭素の排出量の抑制、そして地球温暖化の促進防止

## 【連携する企業・団体等】

長沼あいすの家

担当者：見玉 研一様

## 【ジャーナル（活動記録）】

- 4/12（水） アクションプラン計画書の再検討
- 4/17（月） アクションプラン計画書の再提出
- 4/22（水） アクションプラン計画書の詳細な実行計画策定・提出
- 5/17（水） アクションプラン計画書の再提出
- 5/22（月） 長沼あいすの家に電話し、アクションプラン実行の承諾を得る
- 5/27（水） アクションプラン完全提出
- 6/23（金） エコルールマーク商品の値段を見に行く
- 7/4（火） 保健体育委員にプレゼンテーションを行い、アクションプラン実行の承諾を得る

- 7/5 (水) 長沼あいすの家にアイスクリームを発注。  
姉妹会にアクションプラン予算請求書を提出
- 7/15 (土) 聖ソフィア祭にて、一般のお客様にプレゼンテーションを行う
- 9/1 (金) 姉妹会にプレゼンテーションを行う
- 9/24 (日) 球技大会の景品の買出し
- 9/27 (水) 長沼あいすの家からアイスクリームが届く
- 9/30 (土) 球技大会でアイスクリーム・景品が生徒の手に渡る
- 10/21 (土) 全校生徒にアンケートをする (高校1年生は10/23)

【交渉記録】

- 5/22 (月) 長沼あいすの家の方に連絡し、私たちのアクションプラン実行の承諾を得た。そして、以下の内容について確認した。
  - ・商品が届く日にちと時間
  - ・商品の個数と値段
  - ・請求書の宛名と但し書き
  - ・支払い方法
  - ・領収証
  - ・納品書
  - ・見積書
  - ・請求書

- 7/5 (水) 保健体育委員の承諾を得たうえで、正式にアイスクリームを発注した。そして、上記について改めて確認した。

【アクションプランの実行に向けて】

1) 準備した内容

まず、私たちは昨年度の高校三年生が実施したアクションプランを踏襲しようとした。しかし、二酸化炭素を削減するためのアクションプランとして、それは適当なのかを見極めるために、二酸化炭素の排出量を部門別で調べた。すると、エネルギー転換部門が39%、産業部門が28%、運輸部門が17%、業務その他部門が5%、家庭部門が4%、工業プロセスが4%、廃棄物が2% (2015年度全国地球温暖化防止活動推進センターより) ということが分かった。しかし、1番多いエネルギー転換部門も、2番目に多い産業部門も、私たちの手で変えることが難しいことに私たちは気づいた。そこで、やはり運輸部門に着目し、昨年度のアクションプランを引き継ごうと考えた。



そこで、同じようにアイスクリームを北海道産のものにするというアクションプランの計画を立て始めた。その過程として、コストの面も考え昨年度の「セイコーマート」の「北海道牛乳ソフト」と、「長沼あいすの家」の「アイスキャンディー」(「ミルクバー13」と「ふらのメロン」) が候補に挙がった。そこで、二社の工場を場所を比較したところ、「セイコーマート」は羽幌町、「長沼あいすの家」は長沼町に工場があり、札幌から各工場までの距離が長沼町は74km、羽幌町は185kmと、長沼町の方が札幌に近いということが分かった。これは私達の設定した課題でもある地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の排出量を減らす事と合致するのではないかと思い、「長沼あいすの家」

に決めた。しかし、通常球技大会のアイスクリームは各クラスの要望を聞いたうえで保健体育委員が決めているので、今回アクションプランのためにアイスクリームを「長沼あいすの家」のものにしたいという要望を通すには、球技大会を運営する保健体育委員の許可を得た方が良いということになり、私たちは保健体育委員に対するプレゼンテーションを行うことにした。

それと同時に、球技大会のアイスクリームと景品のお菓子の予算は姉妹会費からいただいているということを知ったので、姉妹会にアクションプラン予算請求書を提出し、会計担当と話したうえで、後日姉妹会に対してプレゼンテーションを行うことになった。またこの時に、私達は球技大会の景品の菓子類をエコレールマークの物に出来ないかと考えていた。エコレールマークとは、どうしても遠くからものを運ばなければならない長距離輸送の場合に、鉄道を使ってものを運ぶ商品につくマークのことを指していて、様々な商品が認定指定を受けている。具体的には、500km以上の陸上貨物輸送のうち30%以上鉄道を利用している商品に認定されている。このマークを知って、遠くからものを運ぶ際でも、鉄道を使えば二酸化炭素を削減できることが分かった。このマークは食べ物から洗剤、ボディーソープまで、様々な商品に認定されているが、今回は球技大会の景品でいつも使われる菓子類の使用を考えた。したがって、球技大会のアイスクリームのプレゼンテーションを行う際、同時にこの提案も発表することを決めた。



## 2) 実行した内容

私たちは、球技大会のアイスクリームや菓子類を変えるだけでは、学校の生徒や先生の意識しか変えられないことに気づいた。また、地産地消やエコレールマークの発見を通して、私たち学生だけでなく、すべての人が地球温暖化の促進を防止するためにできることがあることにも気づいた。それは、日頃から地元産の食材を使うことや、日用品にエコレールマークの商品を取り入れることである。そこで、このことを広く知ってもらうために、私たちは聖ソフィア祭にてこのアクションプランに関する発表を行った。また、発表時間以外でも様々な人に見てもらうために常時パワーポイントをスライドショーで流した。

そして、アクションプランの実行が近づいてきたとき、全校生徒にこのアクションプランの趣旨や内容を理解してもらおうと考えた。しかし、全校生徒の前で発表する時間を設けるのが難しかったため、このアクションプランの趣旨と内容をまとめたポスターを作成した。そして、各クラスの学級委員にポスターを配布し、クラスに対して説明してほしいポイントを伝えたいと、ショートホームルームにて説明してもらうよう頼んだ。次がそのポスターである。

9/24に、近くのスーパーマーケットに球技大会の景品を2人で買いに行った。8チーム分の景品で、とても手で持って運べる量ではなかったので、車を使うと二酸化炭素が出るというのは理解していたが、やむを得ず、車を使って学校まで運んだ。

9/27に長沼あいすの家から頼んでいたアイスクリームが届いた。昨年度の高校三年生は、アイスを保存するうえでミスをしてしまったと聞いていたので、その反省を活かして、その日のうちにアイスクリームを地下の調理室のアイスボックスに、丁寧に数を数えたいと全校生徒180本分を保存した。

# 地球に優しい商品選び

高3・2 村中志帆  
森香

## ①球技大会のアイスクリームについて

私たちは以下の理由により、今年の球技大会のアイスクリームを北海道産のものにしたいと考えています。

北海道産のものを選ぶことによって…  
アイスクリームが運ばれる際の二酸化炭素の排出量を削減することができます。  
それが地球温暖化を抑えることができます！  
(具体的には、杉の木13本分が吸う量！)



アイスクリームの種類は…

“長沼あいすの家”のアイスクャンディー  
(ふらのメロンとミルクバー13のみ)



## ②球技大会の景品について

私たちは以下の理由により、今年の球技大会の景品の菓子類をエコレールマーク認定商品のものにしたいと考えています。

※エコレールマークとは…  
鉄道を使ってものを運ぶ商品につくマークのこと！  
(会社自体が認定されるものもありますが、その会社の商品にはマークはついていません。)



エコレールマーク認定商品を選ぶことによって…  
鉄道を使うので二酸化炭素があまり出ず、地球温暖化を抑えることができます！

少しだけ紹介…



※システム食事に詳しい封書は中五各給校の1枚になります。

## ご協力お願いします！

9/30に、球技大会2日目に、生徒全員に参加賞であるアイスクリームが、優勝したチームに景品の菓子が配られた。アイスクリームを食べる前には否定的な意見も満足していた様子が見受けられた。また、そのときまでは気づかなかったが、私たちは去年とは違い、棒つきのアイスクリームを注文したため出るゴミの量が少なく済んだ。それは、その分焼却時の二酸化炭素を少しでも減らすことにつながる。そこでも、昨年度と比べて一歩発展させることができた。

10/21に、アイスクリームや景品のエコレールマーク認定商品のお菓子類についての感想や、アクションプランの成果について調査するためにアンケートを各クラスに配布し、全校生徒に答えてもらった。高校1年生については、家庭学習日だったため、10/23に配布した。また、その際にアンケートの下にエコレールマーク認定商品の紹介を付け、その部分は切り取って、今後の商品選びに役立ててもらおうように働きかけた。

### 【検証・引き継ぎ事項】

先に述べたように、アクションプランにどのくらい有用性があったかを検証するために、私たちは全校生徒（休みを除き、159人）にアンケートを行った。次が、その結果である。

1. 「ものを運ぶときに排出される二酸化炭素の削減」を目的としたこのアクションプランに賛成ですか？  
→ 賛成131人    どちらともいえない26人    反対1人  
その他1人（いい事だと思うが球体でやるのはやめてほしい）
2. 以前から地元産の食材や商品を使う事で二酸化炭素を減らせることを知っていましたか？  
→ はい121人    いいえ38人

3. 今回球技大会のアイスクリームを「長沼あいの家のアイスクンディ」にしましたが、アイスクリームの感想を教えてください。

- ・おいしかった
- ・良いと思う（地球に優しいから、北海道産だから）
- ・また食べたい
- ・去年より良いと思う
- ・2種類あり、好きな方を選べるのがうれしい
- ・普段スーパーマーケットで見かけないものなのでうれしかった
- ・固さがちょうど良かった
- ・違う種類も食べたい（特にイチゴ味、その次にチョコ味の意見が多かった）
- ・ミルクが人気なので、ミルクの数を増やしてほしい
- ・普通
- ・他のアイスクリームが良かった
- ・味の種類が少ない
- ・もう少し豪華にしても良いのではないか
- ・アレルギーや好き嫌いでメロンを食べれない人が多かった
- ・おいしくなかった
- ・去年の方が良かった
- ・少し物足りなかった
- ・袋からアイスクリームを出しづらかった
- ・2種類とも苦手で食べられない人がいてかわいそうだった
- ・運動した後だったので、クリーム系はべとべととしていて嫌だった
- ・パッケージが惹かれない



4. 以前からエコルールマークの存在、またはエコルールマーク認定商品を知っていましたか？

→はい81人　いいえ76人　無回答2人

5. 事前に各クラスに配布したポスターはご覧になりましたか？また、ポスターに対する感想を教えてください。

→よく見た43人　ちらっと見た93人　全然見ていない20人　無回答3人

- 《感想》
- ・分かりやすかった
  - ・二酸化炭素の排出量についてよく分かった
  - ・見やすく良かった
  - ・アイスクリームがおいしそうだった
  - ・詳しく書いてあって良かった
  - ・すばらしいと思った
  - ・協力できることはしたいと思った
  - ・エコルールマークについてよく分かった
  - ・工夫があって良かった
  - ・二酸化炭素削減は良いことだと思った
  - ・なぜこのアクションプランが必要なのがよく伝わってきた
  - ・写真もあって分かりやすかった
  - ・しっかりまとめられていて、見やすかった
  - ・実行する意味が分かった

- ・おいしそうなアイスクリームやよく知っているお菓子がカラーで載っていて、興味惹かれるものだった
- ・アイスクリームとお菓子の両方について知れて良かった
- ・ポスターを見て新たに知れたことがあった
- ・地球温暖化について考えるきっかけとなった
- ・なるほどと思った
- ・何も思わなかった
- ・参加賞ではないアイスクリームの種類が載っていて悲しかった
- ・もう少し簡潔にしたら分かりやすいと思った
- ・アイスクリームの写真が大きく乗っていたイメージしかない
- ・アイスクリームの写真と実物のイメージが違った
- ・なぜメロンとミルクの選択かが分からなかった
- ・「長沼あいすの家」にした理由が分からなかった
- ・どこにあるか分からなかった
- ・ポスターがクラス掲示されていることを知らなかった

6.アクションプランが行われた後、何か物を買う時の商品の選び方に変化がありましたか？

→はい45人　いいえ113人　無回答1人

7. ご意見やアドバイス等がありましたらお書きください。

- ・この活動をもっと推奨するべきだと思う
- ・好きなアイスクリームが食べたい
- ・普通のアイスクリームに戻してほしい
- ・来年以降もこのアクションプランは続けてほしい
- ・札幌聖心内だけでなく、他の場所にもプランを広めたりしたのか？
- ・担当の学級委員の説明が曖昧で、なぜこのアクションプランなのかが分からなかった
- ・球技大会でやってほしくない
- ・二酸化炭素削減のために地産地消をすることはその地域の経済発展にもつながるしいと思う。しかし、球技大会はいろいろな人が食べるため、選択する味はもっと一般的な味にしていただけると嬉しい。私も楽しく美味しくエコ活動、二酸化炭素削減の取り組みをしようと心がける。
- ・地元産、且つエコルールマーク認定商品のアイスクリームがあれば良いと思う

このアンケートで気づいた反省は、大きく分けて5つある。1つ目は、アクションプランの目的自体に賛成してくれる人は非常に多いが、その手段に対して否定的に思う人が多かったことである。これは、これから述べる様々な反省を活かして、よりすばらしい方法に近づけると良いと思う。2つ目は、アイスクリームに対して、肯定的である人と否定的である人が予想外に分かれたことである。もちろんこのアクションプランを実行するうえで、生徒のニーズは非常に大切である。しかし、私たちは保健体育委員の承認だけで「長沼あいすの家」に決定してしまったので、来年からは全校生徒の声を聞き、アイスクリームの選択肢を用意するなど、できるだけ多くの人から肯定的に思ってくれるように、努力するべきだと思う。3つ目は、全校生徒にアクションプランの趣旨を伝えるうえで、ポスターという手段は適さなかったことである。今回私たちは全校生徒に対して発表をする時間を設けることが難しかったために、ポスターという手段を使うことにした。しかし、ポスターでは、限られた面積に中学1年生にも分かるように、分かりやすくまとめることが求められる。すると、大切なことを省いてまとめる傾向にあるので、私たちは今回、なぜ「長沼あいすの家」にしたのか、またなぜミルク味とメロン味にしたのかを伝え忘れてしまった。また、各クラスの学

級委員にポスターを配ったが、学級委員には簡単な説明だけをしたために、説明が曖昧になってしまったり、ポスターがどこに貼られているのか分からなくなってしまったりした。したがって、まず、全校生徒には紙面ではなく、直接趣旨を伝えるべきである。そうすれば、第三者を挟んで混乱が起こることもなくなる。また、もしどうしても全校生徒に発表する時間を設けるのが難しかったら、必ず学級委員に、趣旨やポスターを掲示する場所など、細かく説明するべきである。4つ目は、このアクションプランを通して、買い物をする際に変化があったという人が思ったより少なかったことである。この理由には、具体的にどのようなものが地元でつくられているかが分からない、またアンケートを行う前は、どのような商品がエコルールマーク認定商品なのかが分からないということが挙げられると思う。エコルールマークに関しては、アンケートを配る際に紹介をしたので、これから意識して商品を選んでくれる人もいるはずだ。しかし、地元産のものについては紹介をしなかったため、分からないままだった。来年は、その紹介もすると良いと思う。そうすれば、たくさんの人に変化があると思う。5つ目は、このアクションプランを実行するのに、球技大会が本当に適していたのか分からないということである。球技大会では、生徒の努力を称え、参加賞としてアイスクリームが配られるのに、生徒が満足してくれなかったら意味がない。しかし、その他に地元産のものを取り入れやすい行事はあまりなく、そこも難しいところである。私たちは球技大会が1番適していると思い、球技大会を選んだが、もし来年このアクションプランを引き継いでくれる人がいるなら、球技大会が本当に適した行事なのかを見極めたうえで、実行する行事を決めると良いと思う。

私たちの行動における反省は、主に2つある。1つ目は、アイスクリームの発注である。私たちは、保健体育委員の承認を受ける前に、間違えて発注してしまった。そのときは保健体育委員の承認を得られたので良かったが、もし得られなかったら発注のキャンセルをしなければならず、会社に迷惑をかけることになっていた。したがって、アイスクリームを決めるために会社に問い合わせをする際は、必ずまだこのアクションプランは決まっていないことを告げた方がよい。そうすれば、会社とのトラブルも起きにくい。2つ目は、アクションプラン実行後に行うアンケートである。私たちは、アクションプランの実行を考えるのに精一杯で、その後のことについてあまり考えていなかった。そのため、球技大会が終わった後にアンケートを作り始め、結果そのアンケートを全校生徒に配るまでに1ヶ月かかった。それによって、生徒たちにとっては1ヶ月前の記憶を思い出さなければならなかったために、少し正確さに欠ける部分があったと思う。自分たちのアクションプランがもたらした変容については必ず確かめる必要があるため、そのことを頭に置いて、来年はアクションプラン実行前にアンケートを作っておくと良いと思う。

このアクションプランは、全校生徒を巻き込んで行うことになる。引き継いでくれる方は責任を持って、さらにすばらしいアクションプランを実行してくれると、私たちはとてもうれしい。

